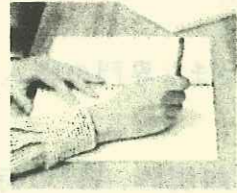


女がいつまでも元気だということは
「セクシー現役」でもありますね。



さて「セクシー」って、女の専門用語?専売特許?



鉛筆の持ち方がよくなると、どうなるのか。
もちろんすぐにきれいな字が書けるようになる訳ではありません。
なかには、本当に変な持ち方のまま、きれいな字を書く人はいます。
けれども、そんな人の字の多くはきれいです、どこか角ばった感じがするそうです。
正しい持ち方の練習をして、それを続けていると、
そのうちに、鉛筆が楽に動かせ、「丸みのある線が引ける」ようになるようです。
鉛筆をお箸に変えて読んでみてください。
お箸を楽に動かして、丸みのある箸使いができるって、
これも「セクシー」じゃありませんこと。

人の心をくすぐるために、自分はどんなスキルや道具を持っているのか?
たまには振り返ってみましょう。「セクシー現役」って、やっぱり大切な女の勲章!



これはちょっと「驚き」。

主婦が指名買いするシステムキッチン。

TOTO「CRASSO」クラッソ

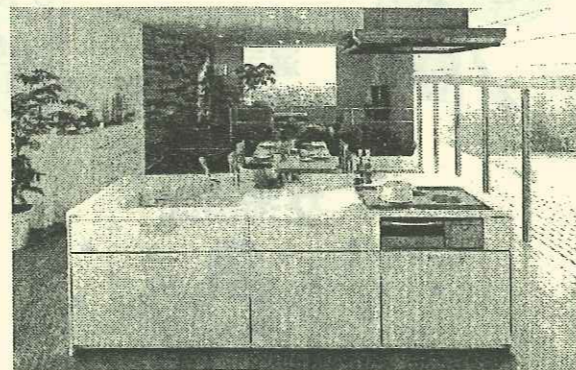


今時メーカーの思惑以上に売れているのがこのシステムキッチン。
料理をするときの人の動きを研究して設計されたそうですが、使い勝手がいいのでしょうか。

女性好み①
作業スペースはキッチン中央にあり、そこから動かずに調味料を取り出したり、お鍋に水を入れたりでき、無駄な動きが省け「ストレス・レス」に。

女性好み②
デザインもシンプルで、レンジフードなど目立つ部分はつなぎ目やビスを減らし、すっきりと。

女性好み③
お皿を洗う時の水の跳ね返りが抑えられる「水ほうき水栓」は、機能ばかりリビングから見たときのカタチにもしっかり気配り。



これからキッチンをリフォーム、新築でキッチン選びというママ、ちょっとTOTOショールームを覗いてみてくださいね。

▼お問い合わせは

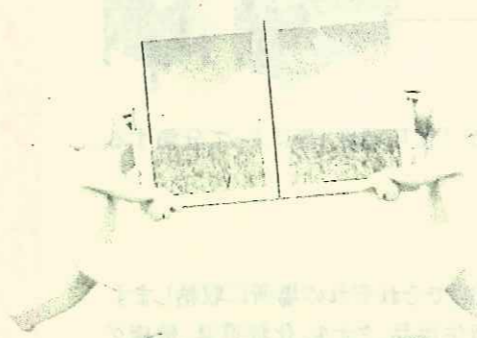
春建設 〒840-0861 佐賀市嘉瀬町中原 2015-11 Tel.24-0749



その心は、大量生産、大量消費、大量破棄社会からのGood Bye!
あり余っているから、すぐお金で買えるから、いつでもどこにでも捨てられるから。
そんな社会と暮らすが、本当に望んだものなのか、快適なのか。
これからはまず疑おう。それには、きちんとして、わかりやすく一流の物差しがいる。
その物差しは、風土と季節、文化的、伝統的がいい。
みんなに共通で、しかも変わることがないから、日本人なら毎日の生活の中で使いこなせるから。

大切にしよう新聞

2011.5



暮らしの歳時記 インテリアの室礼

四季折々の行事の心や季節の情緒をあらわすことのできるインテリアの室礼。
昔から伝えられてきた暮らしを大切にしながら、これからの生活をより豊かに楽しんでいきたい。
そんなちょこっとアレンジしたインテリアの室礼をご紹介します。

5月の歳時記「端午」の室礼

5月5日端午の節句。端午の「端」は「はじ/最初」の意味で、「午」は「うま」つまり端午とは、5月の最初の午の日に行われると言う意味です。
最初は必ずしも5月5日ではなかったようですが、午と五のゴロが同じことからこの行事は、やがて5月5日に大切な厄払いの日となりました。
人々は野に出て薬草をつんだり、よもぎで作った人形を家の戸口にかけるなどして穢れや厄災を祓ったといわれています。
日本ではもともと女性の節句でしたが、武家社会の鎌倉時代から江戸時代にかけて、菖蒲が尚武(武を尊ぶこと)に通じることから男子の無事、成長を願う男の子の節句に変わって行きました。

● こいのぼり

5月5日の風物詩、こいのぼり。こいのぼりは、中国の登竜門の故事に由来しています。「鯉の滝登り」といわれているものですね。黄河の上流の急な流れを鯉が上ることから、鯉は出世魚として考えられ、子供が出世するようにと祈りを込めて江戸時代から、盛んに立てられるようになったようです。また子供が産まれた家では、「この家の子供をお守り下さい」と天の神様への目印に立てたという話もあります。最近はこのぼりもあまり見かけなくなってきました。悠々として見上げるとなんだかおらかな気持ちにさせてくれますし、久しぶりに立ててみるのはいかがでしょうか。



● かぶと

戦場で身を守ってくれる鎧や兜は、特に男の人にとって、とても大事なものでした。端午の節句では、鎧兜は子供に災いがふりかからず、無事に立派に成長するようにとの願いを込めて飾られます。しかし、お節句に飾る鎧や兜は戦いの時の鎧や兜とはちょっと異なるようで、儀式や式典の正装用で晴れ着でした。男の子がいないご家庭では、かぶとのお飾りを室礼することもあまりないと思いますので、簡単に折り紙やキレイな和紙などでかぶとを折り、さりげなく玄関などにしつらえてみるのも季節感が出て素敵ですね。



● たけのこ

端午の節句の室礼には竹の子もよく用いられます。岩をも砕いてまっすぐ天に向かって伸びていくたくましい姿に、子供達の成長を託します。



● ちまきと柏餅

ちまきは戦国時代の携帯食料のなごりといわれています。ちまきを食べるのは、中国戦国時代の楚の詩人「屈原」の命日である5月5日に彼を慕う人々が、彼が身を投げた汨羅江(べきらこう)にちまきを投げ入れて供養したこと、また、屈原の亡骸を魚が食らわないよう魚のえさとしたものがちまきの由来とされています。また、柏餅を食べる風習は日本独自のもので、柏の木は新芽が出るまで古い親の葉が枯れ落ちることなく守ることから、「家系が絶えない」縁起物として柏餅は親が子の無事を願う気持ちを表しています。せっかくのちまきや柏餅も食べる前にちょっとだけおしゃべりにしつらえて、端午の節句を楽しみましょう。

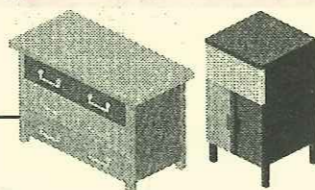


5月5日は子供の日。国民の休日です。
お子様に端午の節句のいわれなどお話ししながら、お部屋を室礼し、日本の古く素敵な文化を伝えていきましょう。
ゴールデンウィーク中でもありますので、ご家族みんなで楽しんでください。

大切なものを賢くしまう 収納術



「もの」がいっぱいの現在。住まいの収納は大きな関心事のひとつになっています。住まいにある様々な「もの」はその収納場所や収納方法に決まりはなく、それぞれのライフスタイルで自由にできるものです。豊かな発想と自由な表現で楽しい収納を考えましょう。



使用頻度別の収納

モノを使いやすく収納しておく「整理」では、収納するモノを「使う時間帯」「季節」「使用頻度」等によって分類すると使いやすく収納することができます。項目としては次の4つです。

●1年を通してほぼ毎日使うもの

毎日使うものは、使いやすい場所に収納があったほうが便利です。分散型収納でそれぞれの場所に収納します。例えば食器や調理器具などの食事に関するもの、歯磨きやドライヤーなどの衛生用品、タオル、化粧品、健康グッズ、靴や靴べら、エアコンやTVのリモコン、携帯電話の充電器等々、毎日使うものですからそれぞれの場所になれば使いに便利です。またできるだけ見せる収納にすることで、さらに使い勝手がよくなります。

●1年を通して時々使うもの

時々使うものとしては、傘や雨具、あまり履かない靴、アウトドア用品、スポーツ用品、爪切りや綿棒、はさみやボールペン、本や雑誌、替えの靴下や下着等が考えられます。これらもやはり使う場所の付近にあったほうが便利ですが、見た目を気にされる方は隠す収納で考えてみましょう。

●特定の季節や行事で使うもの

特定のタイミングで使うものは、入れ替え作業をどう考えるかが使い勝手を決めます。最も多いものとしては夏用と冬用の洋服ですね。その他にストーブや扇風機、雛人形や五月人形、分厚い布団やタオルケット等、季節や行事のタイミングで出し入れするものですから、集中型収納で隠す収納を考えます。クローゼットや洋服ダンスの容量が大きい場合、入れ替え作業は必要ありませんが、行事で使うものやその季節でしか使わないものは、納戸や押入にそのままつっこんでおくと大変な作業を伴いますので、棚や引き出しなどを工夫して収納しておくとう便利です。

●使わないもの(思い出)

使わないけど捨てられないものというのは、長く生活していると案外多くなるものです。若いころのアルバムや卒業記念、子ども達が書いた絵や習字、友人知人からいただいた記念品、優勝カップや盾等、飾っておきたいのだけど飾る場所がない場合や、使えないけど残しておきたいものは収集型で隠す収納が最適です。ロフトを使ったり納戸や押入の出し入れのしにくい場所を使ったりして収納します。屋外の倉庫を利用する場合もありますが、温度や湿度といった自然環境の影響を受けやすいので、しっかりと対策し沢山の思い出を残していきたいものです。



こもだるサンの 子育て日記



はは(こもだる) ちち(だんなサ) みゆう(娘)
偉らく母 偉らく父 平成10年生まれ
こもだる(狐樽)とは萬(わら)の狐(こも)でくんだ酒樽のこと。
お酒を愛しすぎて自分のあだ名にしてしまいました。

選手交代

超未熟児 835^{グラム}
で誕生した美優。
ますます元気に成長中。



仕事復帰への闘志を燃やす
こもだるサンですが数々の難関が
立ちはだかり思うように前に進めません。

求職中だったつうに保育所に入るには、勤務証明書が必要だの、
通勤30分以内の職場じゃなきゃダメだの...
こんなじゃあ、いつ働く母になれるのかわかんないです。

あーしゃらくせえ！こうなったら...



交渉成立



ど...どうも ありがとうございます。
ということで
こもだるサン、本格的に仕事復帰を
果たすことになるのです。
理解力のある(有無を言えない?)
だんなサマのおかげです。



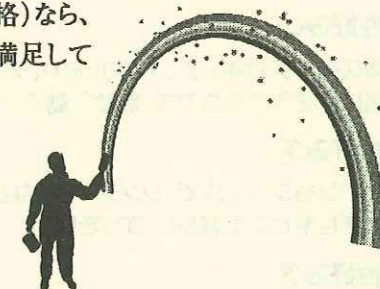
家が完成するまでには、さまざまな専門の職人が関わります。その職種はおよそ二十。面白いのは棟梁の下に、突如現れ、自分の持ち場が終わると、疾風のように去っていくありさま。家づくりを知るには多々あれど、職人の役割を知れば、それは生きた勉強。

「ペンキ屋」には、 国家資格がゆるのです。

資格名は「塗装技能士」。塗装に関する学科及び実技試験を合格しないと一人前の仕事はできません。ちなみに1級は5時間で以下の試験が行われます。

- 1.ラワン合板に、合成樹脂エマルジョン系複層塗材塗装(凸部処理を含む。)を行う。
- 2.ラワン合板に、刷毛によりつや有合成樹脂エマルジョンペイント(2回塗り)塗装並びにローラーブラシにより合成樹脂エマルジョンペイント塗装(パテ地付けを含む。)を行う。
- 3.吹付け塗装によるスプレーパターン作成を行う。

そんな資格と技術力のあるペンキ屋の女房がカラーコーディネーター(民間資格)なら、もうバッチリお客様に満足していただけます。



最後に一言
ここで「〇〇屋」という表現を使ってきましたが、「屋」と付く職業は安定収入を得ていなかったという歴史的背景があるため、いわゆる「日雇い」を侮蔑する意味と同義で「差別用語」とされています。日常生活でも「八百屋」は典型的な放送自粛用語で、「青果店」などと置き換えられています。片や転じて職人自身が自嘲を込めた言い方で「俺は〇〇屋」と唱える場合もありますが、まあ、「八百屋さん」「魚屋さん」などのように「**屋さん」とすれば問題ないとされていますので、建築やリフォーム現場での呼び方は、そうにご認識いただければ幸いです。